

第15回 文京区地域医療連携推進協議会
小児初期救急医療検討部会
(議事要点記録)

日時 令和3年11月29日(月) 午後7時00分から
場所 オンライン

<会議次第>

- 1 部会長挨拶
- 2 新任部会員挨拶
- 3 報告・議題
 - (1) 豊島文京こども救急事業の実績報告について(令和元年10月～令和3年9月)
 - (2) これからの文京区小児初期救急医療について
 - (3) その他
- 4 閉会

<配布資料>

- 資料第1-1号 豊島文京こども救急事業実績(令和元年10月～令和2年9月)
- 資料第1-2号 豊島文京こども救急事業実績(令和2年10月～令和3年9月)
- 資料第2号 #8000事業を中心に小児救急医療を考える(日本小児科医会第8回記者懇談会資料より)
- 参考資料第1号 文京区地域医療連携推進協議会設置要綱
- 参考資料第2号 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会員名簿
- 参考資料第3号 「豊島文京(平日準夜間)こども救急」のチラシ

<出席者>

松平隆光部会長、大塚宜一部会員、伊藤保彦部会員、細川奨部会員、福永英生部会員、松井彦郎部会員、安藏慎部会員、坂本美枝子部会員、右近茂子部会員、笠松恒司部会員

<欠席者>

保坂篤人部会員

<事務局>

渡部健康推進課長

<傍聴者>

0人

1 部会長挨拶

渡部健康推進課長（事務局）；

第 15 回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会開催に当たりまして、事務局からご報告をさせていただきます。

今回は任用切り替え後、初めての部会となります。部会員の皆様への委嘱状につきましては、既に開催通知と一緒に郵送させていただいておりますのでご確認ください。

本部会の部会長でございますけれども、文京区地域医療連携推進協議会設置要綱第 6 条第 5 号第 5 項によりまして、検討部会の部会長は保健衛生部長が指名するとなっております。さきの令和 3 年 8 月 6 日に開催しました第 14 回の文京区地域医療連携推進協議会におきまして、保健衛生部長より、前任期から引き続きまして松平委員を指名させていただき、協議会の承認を得ております。

それでは松平部会長、よろしくお願ひいたします。

2 新任部会員挨拶

松平部会長；ただいまから、第 15 回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会を開かせていただきます。

部会員の先生方には、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

昨年からは流行が始まりました「新型コロナ」のため、従来と異なった医療の現状がございます。戸惑いを隠せない毎日を過ごしております。

我が国では幸運にも流行が収まっておりますけれども、お隣の韓国やヨーロッパではワクチン接種が進んでいるにもかかわらず流行が続いていて終息の傾向がみられません。さらに南アフリカでは新たな変異ウイルス「オミクロン株」が発見され、コロナウイルスによる恐怖は一向に改善される気配はありません。これからも、子どもたちのために地域の小児医療機関と行政が密な連絡をとって、子どもたちの健康を守る努力をしていくことが大切だと思っております。

前回の第 14 回文京区地域医療連携推進協議会は、令和 3 年 1 月 14 日に

書面でもって開催されました。その際にも、議事1、豊島文京こども救急について、議事2は、子どもの救急・急病ガイドブックについて、第3は今後の検討テーマについてご審議いただきました。

本日開催されます、第15回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会でも、第14回と同様の審議事項となっておりますが、前回のご議論を踏まえまして、活発なご発言をいただきたくお願い申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

それでは、はじめに、部会員の出席状況等につきまして、事務局よりお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；本日の部会員の皆様の出席状況をご報告いたします。現在、小石川医師会理事の保坂先生がまだいらっしゃいませんが、他委員の皆様方にはご出席いただいています。

ここで事務局の紹介をさせていただきます。

（事務局紹介）

渡部健康推進課長（事務局）；

それでは、部会長よろしくようお願いいたします。

松平部会長；本日の資料につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；配布資料は、1-1号から2号、参考資料1から3号の計6点でございます。会議資料に不足がございましたら、お申し出ください。

松平部会長；それでは、次第2といたしまして、今回新たに部会員となりました4人の方について、一人ずつご挨拶をお願いしたいと思います。

福永部会員；順天堂大学小児科の福永と申します。このような会に参加させていただいて、何か役に立てることがあればと思います。よろしくようお願いいたします。

坂本部会員；富坂地区で民生委員をしております坂本美枝子と申します。

よろしくようお願いいたします。

私は高齢者の方々を主に担当させていただいております。

小児支援も主任児童委員の方たちと一緒に協力活動させていただいております。この会議に出席させていただき、勉強させていただきたく思います。

よろしく願いいたします。

右近部会員；文京区大塚地区の主任児童委員をしております右近と申します。
よろしく願いいたします。

私も孫が1歳、3歳とおりますので、ちょうどこの小児初期救急医療というのは非常に身近なテーマでございます。初めてですのでどうぞよろしく願いいたします。

笠松部会員；4月より保健所長をしております笠松と申します。どうぞよろしく願いいたします。

3 報告・議題

(1) 豊島文京こども救急事業の実績報告について（令和元年10月～令和3年9月）

松平部会長；それでは次第3の報告・議題に入らせていただきます。議題(1) 豊島文京こども救急事業の実績報告につきまして、事務局よりご報告をお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；お手元の資料ですが、2枚ございます。資料第1-1号は昨年度もご報告させていただきました、こちらの事業が始まった令和元年10月から令和2年9月までの1年間の実績でございます。資料第1-2号が令和2年の10月から今年の9月までで、1年を比較できるような形で資料を作りました。こちらで比較しながら説明をさせていただきます。

資料の一番上、左の診療日数は、今年、昨年と特に変わってはございません。次の1日あたりの平均患者数は、直近は、1.38人、前は1.53人ですので、直近1年間では少し減っています。内訳といたしまして、次の①取扱患者数でございますけれども、直近1年間がその前に比べて、38人の減でございます。この中で特記すべきところは、まず前回の令和2年でございますが、4月と5月が11人、9人と極端に減っております。これはちょうどこの月から緊急事態宣言が入りまして、外出がかなり抑制された影響であると推測しています。

資料1-2号は、特に令和2年の11月、12月、1月がそれぞれ前年と比較してマイナス24人、34人、28人と大幅に減っております。昨年度はこの時期にインフルエンザがほとんどはやらなかったというところも影響しているのではないかと考えております。

それ以降、直近の今年度のほうでございしますが、4月以降は前年度と比べてプラスとマイナスの月がほぼ交互に来ている状況で、最近のところは前年と比べて若干増加傾向にあります。

なお、この取扱患者数の内訳ですけれども、新規来院の方と再来院の方では、大体新規の方が80%台、残りの方が再来ということで、それほど大きな差はないと考えています。

次に、②の時間帯（受付時間）です。こちらでも大幅に変わっているという状況はないかと思いますが、若干、今年のほうが夜遅く、22時台が増えているところがございます。

続きまして、③の年齢です。こちらでも特に大きな変化は見られませんが、今年のほうは1歳から4歳までが若干増えているというところと、この直近1年の中では15歳の方が0人というところが特記すべきところであるとと考えてございます。

続きまして、④の住所です。豊島区と文京区ですけれども、文京区の方は前年比マイナス20人で、傾向といたしましては、先ほど申し上げた取扱患者数と同じような推移で、前回とはさほど変わらないところがございます。

それから大塚病院小児科への引継ぎですけれども、帰宅対応は前回比マイナス10人、入院対応につきましては、マイナス3人です。

最後、一番右側の電話相談ですが、こちらは前回は539人のところ直近の今年のほうは567人とプラス28人で、電話によるお問い合わせの方は増えているという状況でございます。

簡単ではございますが、以上ご報告です。

よろしく願いいたします。

松平部会長；ありがとうございました。

ただいま事務局より、豊島文京こども救急事業が開始されました令和元年10月から令和2年9月までの事業実績と、それから令和2年10月から令和3年9月までの事業実績につきまして、ご報告いただきました。

ご承知のように、ちょうどこの事業が始まりました直後からコロナの流行がありまして、今までと違う状況が続いておりますけれども、しかし、私はこの事業が始まる前、いわゆる豊島こどもクリニックの時代からこの事業に参加させていただいておりますけれども、そのときからそう大きな変化はないと思っております。

いろいろご議論があると思っておりますけれども、今のご報告につきまして、各部会の委員の先生方からご意見をいただきたいと思っております。

今もご報告がありましたとおり、1日あたりの来院者数が大体2名前後、これは前からそう大きく変化はありません。20年ぐらい前に、東京都全体の小児初期救急施設の来院者数を調べてみたんですけども、それでも文京区だけじゃなくて、ほかの区でも大体、小児初期救急施設は1日多いところで3人から5人ぐらいなんです。

ですから、文京区のこの施設だけが極端に東京都の中で少ないということはないと思います。

今、ご報告がありました中で、この少ない数、来院者数はこのままでいかどうか。これを増やすために、どんなふうにしたらいいかどうか。そのためには何をすべきか、そういう点につきましてもまたご議論いただきたいと思います。

また今日、大塚病院の先生、安藏先生もご出席なので、都立大塚病院の立場からのご意見いただければありがたいと思います。どうぞお願いいたします。

この事業の中で、毎日二人前後の来院者数ですけども、私は小児科の診療所を開設しております、来るお母さん、お父さん方に聞きますと夜の救急であまり困ったという話は聞いてないんですね。文京区は医療施設に恵まれている点もあると思いますけれども。

こういう大塚病院の中の初期救急施設以外に、大学病院の救急外来で小児初期救急の方がどの程度見えているか、もし、ご説明いただければ病院の先生方にご意見を伺いたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

東大病院なんかはどうでしょうか。

松井部会員；東大病院の松井でございます。

初期救急として来ている患者というのは、実際にすごく少なく、そういった文京区の患者さんとかは、そちらの救急のほうにお伺いしているのかなというふうに想像していたんですけど、でも、そういった数なのかなというところで、その分、例えばあふれているのがこっちに来ているという感じは今のところはないので、お世話になっているのかなというふうに考えております。

松平部会長；ありがとうございました。

同じく、順天堂のほうではどうでしょうか。

福永部会員；コロナ禍に入ったこの2年間におきましては、当院におきましても、救急外来ですごく多く来ているわけではなくて、基本的に平日ですと同じような、大体多くて5人かなというぐらい

ですので、いずれかの施設に固まって行っているということはないと思います。

逆に私は、今回から委員をさせていただくのですが、豊島文京こどもクリニックの、このポスターを実は拝見したのは初めてだったのですね。私どもの医局員に、実際に一次救急をやっている担当の医師に聞きましても、そういう事業自体をちょっとあまり知らないという先生もいますので、今後少しずつ、事業のほうを宣伝することも必要なのかなという気はしました。

以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

この来院者数が少ないという原因の一つの中に、今ご指摘のあったように、まだまだ、この事業に対するアピールが足りていないということもあるかもしれませんので、その点は反省点として、これからも考えていきたいと思っております。

それでは日本医科大学はどうでしょうか。

伊藤部会員；日本医大の伊藤ですけれども、やはり先ほど順天堂さんと東大さんがお話したように、患者さんの数というのはコロナがはやってからは、もう本当に激減しているのが事実だと思います。

昔みたいに一晩で20人も30人も来るなんていうことも最近は全くなくて、ちょっと最近、入局した連中がなめてかからないといいなと若干危惧をしているところでもあります。

以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

東京医科歯科大学の現状はどうでしょうか。

細川部会員；東京医科歯科大学の細川です。

私たちのところも同じような形ですね。ほとんど夜間は、かかりつけの患者さんから問い合わせであったりとか、必要に応じて受診はしていますが、例えば発熱があったりすると、今の状況だと陰圧室を使っていわゆる感染予防対策をしながらの対応になりますので、一人見るのも結構大変というふうな形になっています。

あとは、私どもの都内、あるいは都外の病院、総合病院を見ても、やっぱり救急外来を受診するお子さんたちは結構減っているんですね。減っていて、なかなかまだ戻って来ないというところも多いみたいなので、そ

の辺りはやっぱりちょっと、コロナウイルスの影響を反映しているのかなというふうに思います。

松平部会長；ありがとうございます。

確かにコロナの影響もあると思いますけれども、私が40年ぐらい小児科を開業していてつくづく感じるのは、やはり子どものワクチンがすごく行き渡ったことで急性疾患、特に重い病気がすごく減っているということも、影響していると思っております。

安藏先生、何かこれについてご発言はありませんでしょうか。

安藏部会員；都立大塚病院の安藏です。皆様にお世話になっております。

松平部会長がおっしゃられたとおり、やはりH i bとか、P C Vに始まって、ロタワクチンが普及したことで、非常に気道感染症と消火器感染症が減って、それでなくても、救急外来の需要が減っていたところに、コロナ禍で皆さん非常に三密を避けて、手洗い等を厳密にされているということで、幸い多くの感染症は減っております。これは別に夜間のみではなくて、昼間も多分そうだと思います。

ただ一部、今年ちょっとはやったR Sのように若干爆発的にはやるものもあるので、油断は禁物というところではないかと考えております。

以上でございます。

松平部会長；ありがとうございます。

貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

これから、この豊島文京小児救急施設を継続していくことは、皆さんご異論はないと思いますので、これから引き続きました、この事業については機会があるごとにご意見を賜りたいと思っております。

(2) これからの文京区小児初期救急医療について

松平部会長；それでは、次に議題の2に移らせていただきます。議題1と重複する点もあると思いますけれども、これからの文京区小児初期救急医療につきまして、でございます。今後こちらの部会で検討していくテーマについて、幅広くご意見をいただければと思います。

私が参考資料として出させていただきました「#8000事業を中心に小児医療を考える」について少し説明させていただきます。

この資料は、日本小児科医会の小児救急委員会が年に数回開催しております日本記者クラブでの記者懇談会で配付された資料でございます。日本

小児科医会では、以前から国の#8000事業を小児の初期救急を考える上で、重要と考えておりまして、厚生省からの研究費をいただきまして、#8000こども医療でんわ相談事業のその現状と有用性につきまして調査してまいりました。その結果、全国に#8000事業は拡大され、過度な救急受診を抑制していることが分かりました。

さらに初期救急医療体制を円滑に実施するために、家庭看護力を向上させることが大切と考えて、家庭看護力醸成に努めるため各地で講演会活動を行っております。

さらに最近では、保坂部会員が理事をされております東京小児科医会小児救急部が#7119救急安心センター事業について、全国自治体での運用実態について調査をして、報告しております。それによりますと、東京都のように非常に#7119事業が充実している自治体もありますけれども、多くの自治体では#8000事業とこの#7119事業を混同しております。実施内容に大きな差があることが分かりました。その原因の一つとして、一つに厚生労働省と総務省の所管の違いが挙げられておりました。

私をご提出させていただきました資料について、簡単に説明させていただきました。

これからは本日の議題、これからの文京区小児救急医療について広くご議論いただきたいと思います。

前回のこの14回の委員会でもいただいたご意見の中に、特に豊島文京こども救急事業につきましては、コロナが終息した後、小児のウイルス性の感染症が増えるので、本事業、豊島文京こども救急事業は続けていく必要があるという意見をいただいております。

それからこの事業の場所が、距離的な問題もあってさらに発展するためにはシビックセンター内に開設して、利便性をよくするとともに、緊急時の検査センターや予防接種センターとしての活用が、このシビックセンターの中に設置すれば可能ではないかというご議論もいただきました。

それから、ご希望といたしましては、医師がオンラインで情報提供・情報共有できるような制度を確立したらどうか、災害時については医療的ケア児や重症心身障害児への支援も考えておく必要があるのではないかと、こういうご議論をいただいております。

これに限らず、何か広く何でも結構なので、これからの文京区の小児救急を考える上でご意見、ご議論がありましたらいただきたいと思います。

松井部会員；すみません。東京大学小児科の松井です。いつもお世話になっ

ております。よろしいでしょうか。

松平部会長；はい。

松井部会員；やっとコロナのほう自体が終息かもしれないというところで、一般診療においても、若干診療数としては上がってきているというところで、ただコロナ自体の影響、アフターコロナというか、それによって例えば#8000の位置づけとか、#7119の位置づけとかというのがあるので、ちょっとここ1年ぐらいは、どうなるのか様子を見るというのが一番無難なのかなというふうに感じているんですけど、その辺のところ皆さんのご意見を伺えたらなというふうに思っております。

松平部会長；ありがとうございます。

今ご指摘がありました点につきまして、ご意見があれば承りたいと思います。

実は昨日、日本小児科医会の救急委員会が全国的に開催されまして、今先生がご指摘になりましたコロナの流行時、それからそのコロナの終息した後の小児救急をどうするかということを議論がされまして、ある程度資料が出てきましたので、この委員会にはちょっと間に合わなかったんですけども、後日、先生方に送らせていただきたいと思います。

やはり子どもさんのコロナにかかった場合のかかりつけ医の対応の仕方だとか、地域の医療機関との連携ということがすごく問題になっていて、今までの小児救急とは少し違った点で議論しなければいけないんじゃないかということが指摘されております。ちょっと今日は資料が間に合わなかったんですけど、後日ご送付させていただきたいと思っております。

そのほかございませんでしょうか。

この点につきましては、またいろいろご意見があると思いますので、日常考えられることがありましたら、時間を問わず、いつでもちょっと事務局のほうにご連絡をいただければ、また皆さんと一緒にご議論をさせていただきたいと思っております。

それでは、今、豊島文京小児救急の事業についてご議論いただきましたけれども、これからこの部会で、何かを議論する必要なテーマがございましたらご提案いただければありがたいと思っております。

特に今、ありませんでしょうか。

引き続き、この部会としては、従来からメインテーマが小児初期救急事業でございますから、今日もいろいろご意見いただきましたとおり、まだまだ不備な点、やるべき点があると思っておりますので、引き続き、この部会で

は豊島文京小児救急事業についてご議論をしていただきたいと思いますと思っております。

(3) その他

松平部会長；その他に移らせていただきます。

それでは、次に、報告・議題その他でございますけれども、部会員の皆様より、ご意見、ご報告、情報提供等がありましたらお願いいたします。

まずそれでは、健康推進課長様より10月15日付で各委員会に送りいたしました、子どもの救急・急病ガイドブックにつきまして、配布実績などのご報告をさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；それでは、私から既にお配りしておりますけれども、こちらの子どもの救急・急病ガイドブックの改訂版についてご報告させていただきます。

改訂にあたりましては、委員の皆様方から貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今回は表紙のインデックスからイラスト等につきまして、より区民に分かりやすいようなというこの改訂を行っております。

10月15日付けで既に各委員の皆様方にもお送りしているところではございますけれども、今回1万2000部の印刷をいたしました。保健サービスセンターにて4か月健診を行う際に、保護者の方にお配りしているところがございます。そのほか、両医師会様、両歯科医師会様、それから薬剤師会様、いわゆる三師会の皆様方の事務局にもお配りして、活用をお願いしているところがございます。加えまして、区内の各医療機関についても皆様についても配架をお願いしています。その他、区立の図書館、あるいは地域活動センターにおきましてもお配りしているところがございます。

また改訂につきましては、隔年で行われますので、次回は令和5年の改訂になりますけれども、またよりいいものをつくるために皆様方、先生方のご意見のほうを伺いたしたいと思います。

よろしくお願いいたします。以上でございます。

松平部会長；どうもありがとうございました。

それでは今、子どもの救急・急病ガイドブックにつきまして、ご報告いただきましたけれども、なかなかたくさん配っていただいても、多くの方の目に留まっているかどうか、ちょっと心配な点もあるのですけれども、

もし坂本様、右近様がこれを見られて、何かご意見がありましたら、またご近所でお母さん方からいただいたご意見がありましたらご紹介していただきたいと思います。

それでは、坂本様からいいですか。

坂本部会員；私ども、民生委員にも配布いただきましてありがとうございます。

お母様方と接する機会があまりないため、まだご意見を頂戴したことがなく残念です。私も子どもが小さい時に夜間に子どもの具合が悪くなりまして、救急車を呼ぶかどうか迷い、不安な一夜を過ごし朝まで待つて病院に行ったことがありました。やはり、子育てのときというのは、私のところも一人っ子で、全然経験がなかったものですから、夜中に子どもに何か起きると、すごくうろたえてしまうんですね。今みたいに夜間に診てくださるところがあったり、電話でアドバイスをしてくださるところがあれば本当に安心出来ると思います。ですから、この事業を継続していただければと思っております。

また、小さなお子様をお持ちのお母様方に接する機会がありましたら、ご意見を伺いたいと思います。

松平部会長；貴重なご意見をありがとうございました。

それでは、右近様、どうぞお願いいたします。

右近部会員；主任児童委員の立場ですので、子どもさんと接することは大変多いのですが、このコロナ禍で2年間ぐらいはなかなか接する機会が少なくはなっておりますが、地域で子どもたちを見ると、やはり健康で元気で育ててほしいなという観点から、例えば私たちは区の方と一緒に子育てガイドというものもつくっておりますし、その中にもやっぱり救急のガイドとかも少し入っております。

この子どもの救急・急病ガイドブックという小さい冊子ですが、これは拝見しますと本当にすぐ分かる、簡略に書いてあるというところでは、若いお母さんたちは今、ネットとか電話相談とか、どっちかというところとネット社会で子育てしているようなところもあるのですが、でも、こういった本が一冊あって、いつも携帯していれば、自分の症状が話せないお子さんが救急とかにもかかる場合も多いので、とてもいい本だと思います。

これもこのまま続けていただきたいなというのと、私たち、先ほど坂本委員もおっしゃっていましたが、子育て時代のときに本当にこういうのがあったらよかったなというのを改めて思いました。

以上です。

松平部会長；ありがとうございます。

それでは、大塚部会員からも広く、どんな意見でもよろしいのでいただきたいと思います。

大塚部会員；どうもありがとうございます。私、文京区医師会の理事をしております大塚です。

小石川医師会の保坂先生ともお話して、なるべく開業の先生たちがこの救急のところで顔を出して、少しでも文京区のお子さん方のお役に立てればというふうに考えています。

まずは、都立大塚病院で、安藏先生にいろいろとご指導をいただきながら豊島文京こども救急ということで、夜の8時から11時までですか、医師会員がそこに顔を出させていただいて、救急医療を少しでもお手伝いができればということでやらせていただいているのと、あと日曜日になりますけれども、これから何とか、今までも休日診療当番ということで、医師会員がやっているんですけど、何とか連日小児科の専門医が、あるいは小児科を標榜している医師が当番に入れるように組めないかなということを努力しております。

どうしても、人数が少ないというところもあって、今まで内科の先生しかいなかったとか、あるいは逆に小児が重なるようなところもあったので、それをうまく配分して、毎週末どこかで小児科の医師が診療できるように、組むようにしましょうということを来年の4月からになりますけれども、組めるんじゃないかなと思っています。

そういった意味で、少しでも文京区の小児救急医療、あるいは小児の時間外医療が充実してくればいいなと思いますし、医師会員としては、本当に日頃からお世話になっています病院の先生方、例えば本当に重症の患者さんが来てしまって、外来をストップしなくちゃいけないときに、例えば平日の夜間であれば、豊島文京こども救急のほうに、あるいは日曜日であれば、そういう休日当番で誰か、探していただければ小児科医がいるんだよということを利用していただけるように持っていきたいなと思っていますので、もうちょっとお時間をいただいて、そういうところで病院の先生方、医局の先生方に、何かあればこういうところを利用していいんだよという形でお話をさせていただけるようになるというふうに取り組んでおりますので、ぜひこれからもよろしく願いいたします。

私からは以上です。

松平部会長；ありがとうございます。

我々、開業医が日曜、祭日、輪番制でやっていますけれども、今、大塚先生がお話になったとおり、小児科標榜医、小児科診療所のところには日曜、祭日はやっぱり50人とか60人とたくさん見えるんですけども、内科系の先生のところにはあんまりこないですよ。今、ご説明があったとおり全然小児科医がいなかったり、重なったりすることもあるので、ぜひ、両医師会で調整していただいて、区民の皆様方に役立つようなシステムにしていだければありがたいと思っております。

何か言い残したこと、つけ加えたいことございましたらお願い申し上げます。

私はふだんから患者さんに接していても、あまり初期救急については困ったという話をきかないし、昔みたいなたらい回しなんていうことも全くないので、これは文京区が非常に医療資源に恵まれている状況だと思っております。

昔では考えられない状況になりましたけれども、これをやっぱり維持していくことも我々の務めだと思います。

委員の先生方から大体ご意見をいただきました。また来年につきましても、この小児初期救急の問題、特に豊島文京こども小児救急事業と、それからやはりガイドブックの一部改正、こういうことについてご議論をしていただきたいと思っております。ガイドブックにつきましては、今、お褒めの言葉をいただきましたけれども、もう少し内容を変える必要があると思っておりますので、また先生方にご返事をいただきたいと思っております。

ご意見はよろしいでしょうか。

それではご議論が尽きたと思っておりますので、事務局の方にマイクを返したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 閉会

渡部健康推進課長（事務局）；本日は夜遅くに、またコロナ禍で皆様方非常にお忙しい中、ありがとうございます。

今回、いただきました貴重なご意見を基にしまして、小児初期救急をよりよいものにしていきたいと思っておりますので、引き続き、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。